

伝統の型や歴史学ぶ

【豊見城】豊見城市立とよみ小学校(赤嶺智郎校長)の5年生約100人が16日、沖縄空手会館を訪れ空手の歴史や型を学んだ。11月の運動会



県空手振興課の仲村顕さん(左)から空手の歴史を学ぶ、とよみ小の生徒たち=16日、豊見城市・沖縄空手会館

とよみ小児童、空手会館訪問

校初めての取り組みだ。生徒たちは県空手振興課や沖縄伝統空手道振興会の職員らに案内され、館内の資料室を見学。同課の仲村顕さんが「沖縄の学校教育に取り入れられたことが、空手の普及が進むきっかけになった」と説明した。

1905年になると県立中学校では空手が指導されるようになり、指導を充実させるために大会も開かれたと紹介。その後は運動会や学芸会、地域の青年会活動でも盛んに披露されるようになったと解説した。

生徒たちは会館内の道場で沖縄剛柔流空手道協会の7人から型を習った。比嘉希さん(10)は「空手は長い歴史とたくさんの方が関わった伝統だということが分かった」とうなずいた。

赤嶺校長は「空手に興味を持ってくれたと思う。体験から学ぶことは大事でこれから大いに学んでほしい」と期待した。

(南部報道部・国吉聡志)